

方言使用に対する規範意識の実態・続攷：回答者の属性との関連性

山県， 浩
群馬大学教育学部講師

<https://doi.org/10.15017/10421>

出版情報：文献探究. 21, pp. 14-36, 1988-03-25. 文献探究の会
バージョン：
権利関係：



方言使用に対する規範意識の実態・統攷

――回答者の属性との関連性――

山 県 浩

1.はじめに

[1]言語意識・言語行動に関する研究は、それぞれ着実な進展を続けてきている。しかし、本稿で問題とする規範意識については、それが言語意識の上に成立し、それに導かれて言語行動が現れるという、中間的存在であるのに、一部の言語生活研究を除くと、従来あまり顧みられなかった。

しかし、言語意識の研究を更に発展させ、言語行動の研究を表面的なものに終わらせないため、これらの研究成果を踏まえつつ、規範意識に関する研究を進めてゆかねばならないように思う。

[2]本稿は、規範意識研究のケーススタディとして、特に、方言行動にかかわる規範意識を問題とする一連の調査・研究の一部に当たる。

前稿（山県 1988b）では、方言使用に対する規範意識の実態について報告を行った。^{*1} 本稿は、そこで紙面の関係のため言及できなかった、規範意識の現われ方と回答者の持つ諸属性との関連性について報告するものである。

具体的には、方言行動にかかわる基本的な規範意識が、使用者・方言現象・場面等の違いに即して現れるとき、評価者の持つ様々な属性がその現われ方にどのような影響を及ぼしているのかについて検討を行う。また、その過程で、前稿において不十分であった点を補ってゆく。

[3]一連の調査で扱った方言現象及び各現象の使用に対する規範意識の実態は、次の(A)～(C)の如くである。

(A)「来レル」「見レル」「寝レル」など、カ変・上一段・下一段の動詞に存する「レル」型の可能表現。～使用者・場面等の違いにかかわらず常に使うべきではないとされる傾向が強い。この点で、その使用に対する規範意識は3現象の中で最も厳しい。

(B)「来(キ)ナイ」「来(キ)ヨー」など、カ変の上一段化現象。～「レル」型の可能表現に比べ、幾らか使用者・場面等の違いに応じて、その使用を許容する余地が存す。この点で、その使用に対する規範意識は、「レル」型の可能表現のそれより緩く、「ペー」表現のそれより厳しい。

(C)「行クペー」「行クダンペー」など、推量・意志・勧誘法の「ペー」表現。～使用者・場面等の違いに応じて、その使用を厳しく制限するとともに、許容もするなど、柔軟性が高い。この点で、その使用に対する規範意識は3現象の中で最も緩い。

※ これら3現象は、以下すべて(A)レル型・(B)カ変・(C)ペーと略記する。

尚、その詳細はすべて前稿に譲るが、上記の如き規範意識の現われ方の違いは、基本的に、(A)レル型が“日本語として許されない「文法上の誤り」”、(B)カ変が“「文法上の誤り」を持つ「方言」”、(C)ペーが“使い分けが問題となる「方言」”などと、それぞれ捉えられているためと考えた。

2. 調査の概要

[1]本稿で扱う調査は、前稿（山県 1988b）で扱ったものと同一で、群馬大学教育学部学生のべ450名（県内出身者）を回答者とするアンケートに基づく。

このため、調査の詳細・調査票などについては、すべて前稿を参照のこと。

[2]本稿で規範意識の現われ方との関連性を検討する属性は、全7アイテムで、基本的属性と言語的属性とに分かれる。

諸属性との関連性とは言いながら、扱う属性がこのような少ないのは、調査のねらいが主として規範意識の実態を明らかにし、規範意識の研究法を探ることにあつたためである。

今後は、本稿の結果を踏まえ、井上史雄氏などの御研究を参考にして（井上 1985、井上・荻野 1985 など）、属性だけを問題とする調査をも行いたい。

[21]基本的属性として、「性（問1）」「学年（問2）」「出身地（問3）」という3アイテムを設けた。

これら以外に、年齢・両親の出身地・出身高校などから性格・学力などまで、様々考えられる。しかし、上記の如き理由により、必要最低限のものとなった。

[22]言語的属性とは、問題とする方言現象と回答者とのかかわり方に関するもので、4アイテム設けた。

使用に関するものとして、「現在の使用状況（問4）」「使用状況の変化（問5）」、他者からの影響に関するものとして、「教師からの指導の経験（問6）」、回答者の言語意識の1つとして、「印象（問7）」を取り上げた。*2)

この場合、言語意識を除けば、他に考えられるものは、あまり多くないが、問6以外に、社会的評価に関する設問を設けるべきであった。

尚、言語的属性は相互に関連し、また基本的属性とも関連していることには、注意が必要である。

[3]各現象の使用に対する規範意識の現われ方は、使用者が回答者と同姓・同年齢の人物（大学生）の場合（問8）、使用者が回答者と同姓の小学校5年生の場合（問9）で、各7場面を設け、それぞれ使用の可否を問う形で検討した。

この場合、対象とした使用に対する評価の回答は、問8で選択肢3の「絶対に使うべきではない」、問9で選択肢1～3の「その子供だけに注意する」「クラス全員に注意する」「その子供にもクラス全員にも注意する」の合計である。

これらの回答を扱うことには、いろんな問題が存す（山県 1988b 33章[2][3]項参照）。しかし、一貫性を保つため、本稿でも、これらを、規範意識が使用者・方言現象・場面等に即して現れた「厳しい不使用の評価の結果（回答）」と見做し、その回答数・回答率を問題にしてゆく。

その他、前稿では、各現象に対する小学校での指導についての自由記述形式の回答（問10）でも、規範意識の実態を検討した。しかし、自由記述であるため、実際の回答者が全体の5・6割で、記述内容の5分類にも問題がない訳ではないので、本稿では扱わない。

[1]どのような属性が規範意識の現われ方にどのような影響を及ぼしているのか、また、それは方言現象の間でどのような差異を見せるのか。――

このような問題の解明には、多変量解析が有効であるが、別表-I・IIの如く、対象とする回答は、場面によって現われ方が大きく異なる。このため、この回答が極端に多かったり、少なかったりする場面では、少数の例外によって有意な差異が現れにくくなるなど、問題が多い。

そこで、一部の場面については、多変量解析を用いて分析を行うが（本章[4]項）、基本的には、厳しい不使用の評価と各属性とのクロス集計の結果に基づいて検討を行う（本章[2][3][5]項）。

[2]有意差検定（母集団比率の検定）の結果に基づき、規範意識の現われ方と諸属性との全体的な関連性について述べる。

尚、この検定は、全体の回答率（＝母集団の比率；別表-I・II、「合計」欄の値）に対して各セルの回答率が極端に高いor低い場合に有意差が現れる。

つまり、ある場面で厳しい不使用の評価とある属性とに関連性が存する場合、特定のカテゴリーに回答の偏りが生ずるが、この偏りがある程度大きくなったとき（即ち、全体の回答率とそのカテゴリーの回答率との差がある程度大きくなったとき）、そこに有意差が現れる。従って、関連性が強い属性ほど、有意差が多く見られることになる。

但し、カテゴリーの全回答者数が極めて少ない場合、1・2例の違いで有意差の現われ方が異なるため、注意が必要である。

[21]現象ごとに有意差の現われ方をみることで、規範意識の現われ方と諸属性との関連性が現象によってどのように異なるのかなど、その違いの全体相が明らかできる。

現象ごとに有意差の見られるセル数を示すと、次の如くである（別表-I・II参照）。

(A)レル型 問8 = 22(231)・問9 = 11(231)・計 = 33(462)

(B)カ 変 問8 = 4(224)・問9 = 1(224)・計 = 5(448)

(C)べ ー 問8 = 20(217)・問9 = 4(217)・計 = 24(434)

※（ ）内は、検定の対象とした全セル数を示す。

(A)レル型に有意差が最も多く、これに、(C)べー・(B)カ変がこの順で続く。(B)カ変には、特に有意差が少なく、全体で、(A)レル型の約7分の1、(C)べーの約5分の1に過ぎない。

その他、問8の方が問9より有意差が多いが、これは対象とした回答の違いに基づくのかもしれない（2章[3]項参照）。

[22]属性ごとに有意差の現われ方をみることで、各属性がどのように規範意識の現われ方に影響を及ぼしているのか、その違いの全体相が明らかにできる。

現象ごとに有意差の多い属性から並べると、次の如くである（別表-I・II参照）。

(A)レル型（全33）

問4 「現在の使用状況」--13(56)

問5 「使用状況の変化」--12(70)

*問7 「印象」-----4(168)

問2 「学年」-----2(42)

問3 「出身地」-----1 (56)

問6 「指導の経験」-----1 (42)

(B)カ 変 (全5)

問4 「現在の使用状況」--3 (56)

問5 「使用状況の変化」--1 (56)

*問7 「印象」-----1 (168)

(C)ベ ー (全24)

問1 「性」-----6 (28)

問4 「現在の使用状況」--5 (56)

*問7 「印象」-----5 (154)

問5 「使用状況の変化」--4 (56)

問3 「出身地」-----2 (56)

問2 「学年」-----1 (42)

問6 「指導の経験」-----1 (42)

※ ()内は、検定を行った各属性の全セル数を示す。

全体的に、言語的属性、特に、「現在の使用状況」など、使用にかかわる属性に有意差が多く見られる。一方、「印象」は、けた違いにセル数が多いのに、有意差は殆ど見られない。*3)

基本的属性には、有意差が少ないが、(C)ペーにのみ「性」に有意差が見られ、かつ、(C)ペーでは最も多いなど、特徴的である。

[3]有意差の現われ方に基づいて、全体的な傾向をみたが、これだけではある属性が規範意識の現われ方に対して本当に影響を及ぼしているのか、決定できない所がある。

有意差検定自体の問題もあるが、特に、学年や使用頻度・イメージなど、連続的なカテゴリーを持つ属性では、カテゴリーの内容とその回答率との対応をみるなど、その回答状況を検討しなければ、影響関係の有無は決定できない。

[31]「性」では、有意差の多さが示すように、(C)ペーにおいて男女差が最も大きく、また徹底している。

即ち、問8・問9すべての場面で女性の方が男性より回答率が高く(内、10%以上の差は、4場面)、(C)ペーの使用に対する女性の規範意識の厳しさが窺える(山県 1988b 33章[431][531]項参照)。*4)

その他、(A)レル型でも、男女差は大きく、10場面で女性の方の回答率が高くなっている(内、10%以上の差は、2場面)。しかし、(B)カ変では、男性の方が高い場面で、8場面(内、10%以上の差は、1場面)、女性の方が高い場面で、残り6場面(内、10%以上の差は、2場面)となり、どちらかが一貫して高いという状態ではない。

[32]連続的な属性である「学年」では、《学年の進行につれて、該当の回答率が低くor高くなってゆく》という傾向が理想的である。

微妙な差も含むが、学年が進むにつれて回答率が高くなってゆく例は、(A)レル型で4場面(問8；*⑥・*⑦、問9；①・⑤)、(B)カ変で3場面(問8；③・*⑥・*⑦)、(C)ペーで6場面(問8；*①・③・*⑦、問9；①・*⑤・*⑥)、逆に、低くなってゆく例は、(B)カ変のみ3場面(問9；*④・*⑤・⑦)となる。*5)

(18)

(B)力変には、問8に<漸増>、問9に<漸減>と、逆の傾向が共存するなど、問題が多い。しかし、(A)レル型・(C)ペーには<漸増>だけで、一応、学年が進むにつれて各現象の使用に対する規範意識が厳しくなると言える。

勿論、上記の如く、<漸増>傾向の場面は多くない。むしろ、どの現象でも、「4年生」ではなく、中間の「3年生」に回答率のピークのある場面が多く、各々7・8場面も存す。

[33]「出身地」では、どの現象でも「北部」に回答率の低い場面が多い。

一方、回答率の高い場面が目につく地域は、一定しない。例えば、(A)レル型では、「東部」であるが、同時に回答率の低い場面も少なくない。(B)力変でも、「東部」であるが、「西部」「中央」にも少なくはなく、(C)ペーでは、「中央」がやや目立つ。等々。

[34]「現在の使用状況」には、既述の如く、どの現象でも有意差が多く認められた。

更に、この属性と規範意識の現われ方とに強い関連性が存すると言えるのは、使用頻度（「良く使う」「時々使う」「たまに使う」「使わない」）と該当の回答率とに相関が認められる、即ち、《使用頻度が高くなるにつれて、該当の回答率が低くor高くなってゆく》という傾向が見られる場合である。

先ず、微妙な差も含むが、「使わない」から「良く使う」へと進むにつれて、回答率が徐々に低くなってゆく例は、(A)レル型で6場面（問8；*⑥・*⑦、問9；*②・*③・*④・*⑤）、(B)力変で4場面（問8；①・②・*⑥、問9；*①）、(C)ペーで2場面（問8；*①・*②）に過ぎない。

(A)レル型にこの傾向が多いが、更に、回答率の最高値と最低値との差が最低で約25%と、開きの大きいものばかりであることも、注目に値する。

尚、回答率が徐々に高くなってゆくという逆の例は、全く認められない。

[341]上記の如く、<漸減>傾向の見られる場面は多くない。しかし、この傾向の見られない場面での回答状況をみても、関連性の強さを物語る徴候はどの現象にも認められる。*6)

即ち、現象によって若干の差異は見られるが、全体的に「良く使う」では回答率が低く、「使わない」又は「たまに使う」で回答率が高くなっている。中でも、(A)レル型には、他の2現象に比べて、例外的な場面が少ない。

以上の如く、(A)レル型には規範意識の現われ方と「現在の使用状況」という属性とに強い関連性が存すると言えるが、これは、《使用頻度が高くなるにつれて、その使用に対する規範意識が緩くなってゆく》という傾向が明確であるということになる。

[35]「使用状況の変化」も「現在の使用状況」と同性格の属性であるため、規範意識の現われ方とは強い関連性を有するものと考えられる。事実、有意差はかなり認められた。

ただ、この設問には、選択肢に漠然とした「以前」という用語を含むなど、問題が多い。このため、「現在の使用状況」の如く、使用頻度順にカテゴリーを並べて、該当の回答率を検討するという方法は、あまり重視できない。*7)

そこで、場面ごとに回答状況をみてゆくと、現象によって若干の差異は見られるが、全体として次の如き傾向が認められる。*8)

即ち、常に「以前も現在も使っている」で回答率が低く、その他のカテゴリーとの差が大きい。その他の中では、特に「以前だけ使っていた」や「以前も現在も使っていない」など、<現在、使っていない>という内容のカテゴリーで回答率が高い。

結局、現在に至るまでの使用上の経緯の違いより、現在使っているか否かということの

方が、規範意識の現われ方に大きな影響を及ぼしているようである。

このため、有意差の現われ方ではあまり差がなかったが、「使用状況の変化」が「現在の使用状況」と同程度の関連性を有しているとは言えない。しかし、上記の如く、徹底して使い続けてきた方が、そうでない方より、その使用に対する規範意識が緩いという事実からすると、その基底には、「現在の使用状況」で見られた、《ある現象の使用頻度が高くなるにつれて、その使用に対する規範意識は緩くなってゆく》に類する傾向が存在するように思われる。

[351](A)レル型だけに見られる「現在だけ使っている」の回答率は、全体的に「以前も現在も使っている」の回答率より高く、「以前の方が良く使っていた」の回答率に近い。

ある現象を新たに使い始めるということで、「現在だけ使っている」には「以前も現在も使っている」並みかそれ以下の回答率—規範意識の緩さ—を予想していた。しかし、(A)レル型を使い始めた理由が、＜周囲で使っている人が多いため、それに引かれて…＞であったことを考えると（山県 1988b 31章[422]項参照）、自ら使いながらも、その使用に対して批判的になっているのも首肯できる。

ちなみに、(A)レル型では、他の2現象に比べて、「以前の方が良く使っていた」の回答率の方が「以前も現在も使っていない」「以前だけ使っていた」の回答率より低い。このため、徹底した＜「以前も現在も使っている」対その他＞の如き対立は見られず、「以前の方が良く使っていた」「現在だけ使っている」が中間グループを形成している。

その意味で、(A)レル型には、注(7)で述べたような、規範意識の現われ方と累積的な使用頻度とに幾らか関連性が認められると言える。

[36]「教師からの指導の経験」には、有意差が殆ど見られないが、一定の傾向性は認められる。

それは、(A)レル型に顕著で、すべての場面で「ある」の方が「ない」より回答率が高い（内、10%以上の差は、7場面）。(C)ペーも同様で、1場面（問9；④）を除くすべての場面で「ある」の方の回答率が高い（内、10%以上の差は、6場面）。しかし、(B)カ変では、「ある」の方の回答率が高いのは、6場面に過ぎない（内、10%以上の差は、1場面）。

(B)カ変は問題であるが、「ある」と「ない」との限りでは、全体として教師から何等かの指導を受けた方が、そうでない方より、その使用に対する規範意識が厳しいと言える。

尚、「わからない」の位置は、やや不明確であるが、(A)レル型では、「ある」に近く、(B)カ変・(C)ペーでは「ない」に近いようである。

[4]多変量解析のうち、判別分析の質的データへの拡張である「林の数量化理論Ⅱ類」（以下、林Ⅱ類と略記）を用いて、規範意識の現われ方と諸属性との関連性などを検討する。

ここでも、厳しい不使用の評価の回答を対象とするが、これ以外の回答の扱い方がやや異なるため、注意が必要である（5章参照）。

尚、次の①②の如く、対象とする場面・属性は、調査したものすべてではない。また、使用したパソコン用ソフトの関係で、相関比が算出できず、判別効果が示せない。このため、林Ⅱ類による分析は、あくまでも前項までの分析を補うものである。

① 説明変量として、「印象」を除く、6つの属性を扱った。

② 分析結果を示した場面は、問8・問9それぞれ2つずつの全4場面とした。*9)

「印象」を除外したのは、そこには全回答者数の少ないカテゴリーが多く、これらの回

(20)

答によって有意な差が現れにくくなるのを防ぐためである。

対象を4場面としたのは、紙面の関係もあるが、これらでは3現象ともに厳しい不使用の評価の回答がこれ以外の回答と数的に拮抗している。従って、各属性のレンジが平均して高く、最も高い水準で比較が行えるためである。

[41]規範意識の現われ方に対する各属性の影響の及ぼし方は、どの現象でも「現在の使用状況」「使用状況の変化」など、使用にかかわる属性で大きい(別表-Ⅲ・表-(1)参照)。

即ち、3現象いずれでも両属性のレンジは常に高く、順位も高いものが多い。また、カテゴリースコアの最大のものも、この2つに集中する。

尚、(A)レル型では、両属性の差は微妙であるが、(B)カ変・(C)ペーでは、「現在の使用状況」のレンジ・順位の高さが顕著である。

表-(1) 4場面の平均レンジ

	性	学年	出身地	現在の 使用状況	使用状況 の変化	指導の 経験	平均値
レル型	0.1219	0.0917	0.2063	0.5803	0.6311	0.2192	0.3084
カ 変	0.0673	0.1190	0.2219	0.4935	0.3965	0.1151	0.2356
ペ ー	0.1535	0.1602	0.2134	0.3733	0.2184	0.1429	0.2103

[41]使用にかかわる属性以外になると、レンジが低く、差異が不明瞭になる。

ただ、その中でも、「出身地」のレンジは、3現象とも少し高く、「東部」や「北部」のカテゴリースコアが高くなっている([33]項参照)。

尚、(C)ペーでは、「性」に多くの有意差が見られた([22][31]項参照)。しかし、そのレンジは特別高くない。これは、扱った4場面でたまたま(C)ペーの男女差が小さかったなど、別の事情が考えられる。*9)

[42]規範意識の現われ方と諸属性との関連性のあり方が現象でどのように異なるかについては、既述の如く、相関比が明らかでないため、客観的に示せない。

一応、レンジの合計の平均値で比較すると、(A)レル型で最も高く、これに(B)カ変・(C)ペーの順で続くが、両者の差は小さい(表-(1)参照)。

また、「現在の使用状況」「使用状況の変化」など、影響力の大きい属性で比較しても、(A)レル型のレンジの高さは顕著である。

従って、ここで扱った6つの属性の限りでは、(A)レル型で最も強い関連性が存するといえることになる。

[43]林Ⅱ類による分析は全場面・全属性を対象としたものではないが、有意差の現われ方や回答状況の検討の結果と大きく異なることはなかった。

中でも、顕著な点、即ち、使用にかかわる属性や(A)レル型で一致して関連性が強いと言えることは、注目に値する。

[5]規範意識の現われ方とイメージとの関連性は、有意差の現われ方でみると、かなり弱いものであった([22]項参照)。

勿論、問7は設問の形式やデータの整理法などから他と異なっており、単純な比較は危険である。しかし、各現象に対するイメージが規範意識の現われ方と強い関連性を持っていると言えないことは、ある程度、予測できていた。

即ち、方言使用に対する基本的な規範意識——《改まった場面では、いい言葉を使わねばならない》など——における「いい言葉」という捉え方は、それに対する知性的な言語意識が曖昧なときに限って、それが持つ“善し悪しの感じ”に強く規定される。しかし、本稿で扱った現象の場合、「共通語ではない」「方言である」等々の認識は明確であるため、たとえ「都会的」「おおらか」等々で“いい感じ”が強くても、それはすでに大きな影響力を持ち得なくなっていると考えられる（山県 1988a 4章参照）。

しかし、これは、あくまでも他の属性と比較した程度問題で、イメージそれだけを見れば、そこに規範意識の現われ方と何等かの関連性が認められる。

また、今後の「地方共通語」に関する研究のためにも、本稿のような形にせよ、イメージというものを規範意識にかかわらせて考えることは、重要である。

[51] 規範意識の現われ方とイメージとが関連性を有すると言えるのは、先ず、単純な組合せで、次の4つの傾向が存する場合である。

① プラス評価；評価値が高くなるほど、該当の回答率が A. 低く or B. 高くなってゆく。

② マイナス評価；評価値が高くなるほど、該当の回答率が A. 低く or B. 高くなってゆく。

そして、一般的に、同じ方言現象でも“いい感じ”に捉えられるほど、規範意識が緩く、“悪い感じ”に捉えられるほど、規範意識が厳しくなると考えられるため、妥当な関連性とは、プラス評価の場合、「①-A. 回答率の漸減」の傾向、マイナス評価の場合、「②-B. 回答率の漸増」の傾向ということになる。

そこで、この傾向①-A・②-Bの見られる場面が、各現象にどの程度存するかという点を中心に、規範意識の現われ方とイメージとの関連性を検討する。

この場合、各現象とも、できるだけ多くの場面に傾向①-A・②-Bだけ、または、傾向①-B・②-Aだけが見られることが、規範意識の現われ方とイメージとの関連性が強いということになる。

尚、各場面について、12評価語ごとに検討するのが理想的である。しかし、紙面等の関係で、12評価語を知情的+・-、情的+・-の4グループにまとめるなど、元データを大幅に加工したもので検討を行う（別表-II参照）。

[52] プラス評価の場合、(C)ペーの知的評価の値が低く、[4~6]のカテゴリーに用例が存しないことには、注意が必要である。

全体的には、次の如く、「①-A. 回答率の漸減」「①-B. 回答率の漸増」いずれも見られるが、理想的な傾向①-Aの方が多い。

I. プラス評価

(A) レル型

知的評価：A<漸減> = 8 場面（問8；*④・*⑤・*⑦、問9；①・②・*③・④・⑥）

情的評価：A<漸減> = 7 場面（問8；①・②・*⑥・*⑦、問9；*①・*②・*⑤）

(B) カ 変

知的評価：A<漸減> = 3 場面（問8；*③・④・*⑤）

情的評価：A<漸減> = 3 場面（問8；①・③、問9；⑦）

情的評価：B<漸増> = 3 場面（問8；⑤・⑦、問9；②）

(C) ベー

知的評価：A<漸減> = 9 場面（問8；①・*③・*⑥・⑦、問9；①・*③・④・*⑤・*⑥）

(22)

知的評価：B<漸増> = 5 場面（問8；②・④・⑤、問9；②・⑦）

情的評価：A<漸減> = 6 場面（問8；*④・⑤・*⑥・*⑦、問9；④・*⑤）

情的評価：B<漸増> = 2 場面（問8；*①・*②）

※ 知的評価・情的評価に分けて、傾向①-A・①-Bの見られる場面数を示した。

※（ ）内には、該当する場面を示したが、注(5)の如く、*印は、各カテゴリーの中で

最高値を示すものの値と最低値を示すものの値との差が、10%以上の場面を意味する。

[521](A)レル型には、傾向①-Aが知的評価・情的評価ともに全体の半数の場面で認められ、かつ、傾向①-Bが存しないなど、徹底した状態が見られる。また、これらの傾向の見られない場面でも、[0・1]のカテゴリーで回答率の最も高くなるものが少なくない。

(B)カ変は、傾向①-A・①-Bともに多くないが、情的評価には両者が同数で共存するなど、問題が大きい。

その回答状況をみると、特に、知的評価の場合、中間の[2・3]のカテゴリーで回答率の最も低い場面が多い。また、情的評価の場合、傾向①-A・①-Bも含め、最高値と最低値との差が10%以内という場面が殆どを占めるなど、全体的に回答率の差が小さい。

(C)ペーは、知的評価のカテゴリー数に問題があるため、他の2現象との比較は行えない。しかし、[0・1]と[2・3]のカテゴリーだけではあるが、傾向①-Aの方が多いこと、傾向①-Bでも、殆どで最高値と最低値との差が5%以内であることなどは、重視してよからう。

(C)ペーの位置については、一応、情的評価の状態から、(A)レル型と(B)カ変との中間で、やや(A)レル型寄りかと考えられる。

[522]規範意識の現われ方とプラスイメージとの関連性は、現象による違いが大きく、(A)レル型で最も強く、(B)カ変で最も弱いと言える。

(A)レル型には、プラス評価として理想的な傾向①-Aだけが半数以上の場面に認められるなど、徹底した状態が見られる。従って、上記の如く、(A)レル型では関連性が強い、即ち、《“いい感じ”に捉えられるほど、その使用に対する規範意識が緩くなる》という傾向が極めて強いと言える。

これと対照的なのが、(B)カ変であり、傾向①-Aは少なく、逆の傾向①-Bと混在している。また、回答状況をみても、一貫性や起伏に欠けており、規範意識の現われ方との関連性は殆ど感じられない。

(C)ペーは、一応、レル型に準ずる程度の関連性を有すると言える。

ただ、知的評価の場合、(C)ペーがプラスにイメージされにくいなど、関連性以前の問題も存す。

[53]マイナス評価での傾向②-A・②-Bの現われ方は、次の如くであるが、プラス評価の場合に比べて、ここで理想的な傾向である「②-B.回答率の漸増」がやや少ない。

II. マイナス評価

(A)レル型

知的評価：A<漸減> = 3 場面（問8；①・*⑥、問9；①）

知的評価：B<漸増> = 4 場面（問8；*③・*④、問9；②・*⑦）

情的評価：A<漸減> = 4 場面（問8；①・⑦、問9；①・②）

情的評価：B<漸増> = 4 場面（問8；*②・*⑤、問9；③・*⑤）

(B)カ 変

知的評価：A<漸減> = 1 場面（問8；①）

知的評価：B<漸増> = 6 場面（問8；*③・*④・*⑤・*⑥・*⑦、問9；*⑤）

情的評価：A<漸減> = 2 場面（問8；⑥、問9；*⑦）

情的評価：B<漸増> = 4 場面（問8；②・*③・*⑦、問9；①）

(C)ベ ー

知的評価：A<漸減> = 2 場面（問8；③・④）

知的評価：B<漸増> = 1 場面（問9；③）

情的評価：B<漸増> = 4 場面（問8；*①・*②・*③・*⑤）

[531](A)レル型では、数的に傾向②-Aと傾向②-Bとが拮抗する。

勿論、逆の傾向②-Aの見られる場面の最高値と最低値との差は小さく、傾向②-Bの見られない場面でも、[4~6]のカテゴリーで回答率の最も高くなるものが少なくないなど、傾向②-Bの少なさを補う現象は認められる。しかし、プラス評価の場合との違いは歴然としている。

(B)カ変には、傾向②-Aも見られるが、それ以上に傾向②-Bが多く、プラス評価の場合と対照的である。ただ、傾向②-Bは、問8に偏り、問9には中間の[2・3]のカテゴリーにピークのある場面が多いなど、やや気になる現象も見られる。

(C)ペーには、傾向②-A・②-Bが少ないなど、全体的な傾向が捉えにくい。

例えば、知的評価の場合、場面ごとに回答率の最も高いカテゴリー、最も低いカテゴリーが異なり、一貫性が見られない。また、情的評価でも、中間の[2・3]のカテゴリーに回答率の最も高い場面が集中する。ただ、情的評価の[0・1]のカテゴリーには、回答率の最も低い場面が多く、そこに有意差が集中するなど、傾向②-Bの背景を成す一面も見られる。

[532]規範意識の現われ方とマイナスイメージとの関連性は、プラスイメージの場合に比べて、全体的に不明確であったが、(B)カ変で最も強く、(A)レル型で最も弱いと言える。

このように(B)カ変で最も関連性が強いが、理想的な傾向②-Bの他、逆の傾向②-Aも若干見られることから、その強さは、プラス評価の(A)レル型ほどではない。

しかし、一応、(B)カ変には、《“悪い感じ”に捉えられるほど、その使用に対する規範意識が厳しくなる》という傾向が強いと言える。

これと対照的なのが、(A)レル型で、傾向②-Aと傾向②-Bとが殆ど同数で混在している。これは、場面ごとに規範意識の現われ方とイメージとの関連性のあり方が異なり、一貫性が認められないことを意味する。

(C)ペーでは、傾向②-A・②-B自体が少なく、この段階で関連性の弱さは否定できない。しかし、傾向②-Bの方の多さから、(A)レル型よりやや関連性は強いと言える。

4.まとめ

[1]属性には、回答者自身に関するものから、問題とする現象へのかかわり方に関するものまで様々考えられる。特に、前者には、人間の顔が一人ひとり異なるように、数多く存在するように思われる。

本稿で扱えたものは、いずれの場合も、そのごく一部に過ぎず、これだけで規範意識の

(24)

現われ方と諸属性との関連性云々と称するのは、些かおこがましい。

この点については、すでに2章で述べた通りであるが、規範意識に関する研究の第一歩として、前稿（山県 1988b）ともども、本稿も、今後の調査・研究の礎にはなり得たと考える。そこで、これらで述べてきたことが、今後何等かの形で生かされたとき、本稿などの目的は十分達げられたとすることができる。

最後に、方言使用に対する規範意識の現われ方と諸属性との関連性について、属性差・現象差の2点からまとめる。

[2]本稿で扱った諸属性の中で、規範意識の現われ方に対して最も影響を及ぼしていたのは、3現象いずれでも「現在の使用状況」であり、これに「使用状況の変化」が続いていた。

有意差の現われ方や林Ⅱ類の分析では、両者に甲乙付け難い現象もあった。しかし、最終的には、各々の回答状況の検討から上記の如く考えた。

尚、これらの属性における関連性の基本的なあり方は、《各現象の使用頻度が高くなるにつれて、その使用に対する規範意識は緩くなる》というもので、上記の如く「現在の使用状況」に顕著である。

このように規範意識の現われ方と使用にかかわる属性とが最も強い関連性を有していることは、ある現象を使用するか否かということが、現象と回答者との様々なかかわり方の中で、最も密接な関係であることを考えると、当然の結果と言える。

[21]使用にかかわる属性以外になると、それらの関連性の違いは不明瞭になる。

特に、基本的属性は、全体的に低調であるが、(C)ペーにおける「性」での関連性は、比較的強いものであった。

中でも、使用者が同性・同年齢の人物の場合、回答者の性の違いが、規範意識の現われ方に大きな影響を及ぼしていた。この場合、《女性の方が男性よりその使用に対する規範意識が厳しい》という傾向が顕著であった。また、これは、(C)ペーほどではないが、(A)レル型にも認められた。

その他、「学年」「出身地」「教師からの指導の経験」にも、それぞれ何等かの関連性が見られたが、規範意識の現われ方に大きな影響を及ぼしているものではなかった。

[22]規範意識の現われ方とイメージとの関連性については、データを複数の整理法でまとめて分析するなど、いろいろな角度から検討を行うべきであった。

一応、元データに加工を施し、関連性を考えやすいプラス評価・マイナス評価という2つの軸で検討したところ、次の如くである。

即ち、(A)レル型は、プラス評価で、(B)カ変は、マイナス評価で、それぞれ強い関連性を示し、(C)ペーは、プラス評価でやや強い関連性を示す。

その関連性のあり方として、プラス評価には、《“いい感じ”に捉えられるほど、その使用に対する規範意識が緩くなる》という傾向、マイナス評価には、《“悪い感じ”に捉えられるほど、その使用に対する規範意識が厳しくなる》という傾向が、それぞれ認められた。

ただ、上記の如く、どの現象も、どちらかの傾向が著しいだけで、両方が見られることはない。この点については、評価語ごとに回答状況をみてゆくなど、きめ細かな検討が必要である。

[23]各属性を同レベルで扱い、規範意識の現われ方との関連性を検討したが、属性どうし

の関連性にも注意が必要である。

例えば、(C)ペーの場合、その使用については、ほぼ《男性は使用、女性は不使用》という徹底した差異が見られた(山県 1988b 31章[21]項参照)。このため、「女性」の回答と「使わない」の回答とは、殆ど重なってしまい、いつも「性」の背後に「現在の使用状況」の存在を意識せざるを得なかった。

その他、「現在の使用状況」は、規範意識の現われ方との関連性が強いだけに、例えば、「使用状況の変化」とは当然として、その他、「出身地」や「印象」との関連など、気になるものは少なくない。^{*10)}

ただ、本稿では、上記の諸点にまで配慮して検討する余裕がなかったため、このような形で指摘するにとどめる。

[3]現象ごとに規範意識の現われ方と諸属性との関連性をみたが、総合的には、(A)レル型と(B)カ変・(C)ペーとの差が大きく、あり方は、(A)レル型で最も強く、次に(C)ペー、僅かな差で(B)カ変が続くというものである。

[31]現象差が最も顕著に現れているのは、「現在の使用状況」「使用状況の変化」で、特に、(A)レル型での関連性の強さは圧倒的である。有意差の現われ方や林Ⅱ類の分析では、勿論のこと、回答状況の検討でも明確であった。

ただ、(B)カ変と(C)ペーとは、有意差の現われ方を除くと、林Ⅱ類の分析や回答状況の検討では、逆に、(B)カ変の方が(C)ペーより幾らか強い関連性を有していた。

[32]その他の属性になると、「印象」を除けば、(A)レル型はそれほど際立たなくなる。

勿論、属性ごとの関連性も弱くなるが、「性」に代表される如く、全体的に(C)ペーでの関連性が強い。一方、(B)カ変では、有意差の現われ方は当然として、その回答状況には、問題が多い。

例えば、「性」の場合、(A)レル型・(C)ペーでは、一貫して女性の方で厳しい不使用の評価の回答が多かったが、(B)カ変では男女差が明確に認められなかった。また、「教師からの指導の経験」でも、(A)レル型・(C)ペーと(B)カ変との違いは明かであった。

その他、「学年」で、(B)カ変だけに逆の傾向が存するなど、特異な面も見られた。

[33]それでは、どうして関連性のあり方に上記の如き現象差が生ずるのであろうか。

この問題については、属性ごとの関連性の違いを考えると、先ず、使用にかかわる属性での関連性のあり方が、(A)レル型と(B)カ変・(C)ペーとで異なることを検討してゆくべきであろう。

しかし、このように問題を限定しても、現在、それを十分に説明することはできない。

ただ、本稿で扱った属性が限られていることから、それら以上に規範意識の現われ方と強い関連性を有する属性の存在を考えてみる必要はある。

この場合、各現象に対する知性的な言語意識の違い――例えば、“近年、若年層を中心に増加してきた「文法上の誤り」”や“伝統的に使われてきた群馬を代表する「方言」”など――が、問題になってくるかもしれない。

尚、言語意識の問題については、前稿でも反省として述べたが(山県 1988b 33章[543]項参照)、初期の段階では、現象と回答者との1対1の閉じた関係の中で考えることも許される。しかし、最終的には、次の高橋太郎氏のことばを待つまでもなく、現象も回答者も社会的存在であるという認識から、特に知性的な言語意識の場合、個々人の持つ言語意

(26)

識を形成してきたものとして、社会的評価やその基盤に考慮してゆく必要がある。*11)

「意識は、個人個人の脳髓の活動を生理的基礎とするものであって、外界の客観性に対して、主観的である。その意味で意識の存在形態は個人的であるといえる。しかし、意識は外界の客観的現実を反映しているものであり、個人個人の意識の内容的基礎となっている外界の現実の共通性によって、各人の意識も社会的な共通性をそなえている。その意味で、意識は、また、社会的であるということが出来る。」(高橋 1963 p.272)

5. 別表の説明

「レル」型の可能表現・カ変の上一段化現象・「べー」表現の使用に対する規範意識の現われ方と諸属性との関連性をみるため、3種類の別表を設けたが、その詳細は次の如くである。

別表-I-A~C 3現象の各場面における厳しい不使用の評価と問1~問6の諸属性とのクロス集計の結果をまとめたもの。

- ◎ 各セルの数値は、属性ごとの各場面における厳しい不使用の評価の回答、即ち、次のカテゴリーの回答者数及びその回答率(全回答者数に対する百分比)を意味する。
尚、一部のセルに見られる「-」は、該当のカテゴリーに回答がないことを示す。

問8; 選択肢3の「絶対に使うべきではない」

問9; 選択肢1~3の「その子供だけに注意する」「クラス全員に注意する」「その子供にもクラス全員にも注意する」の合計

- ◎ 各セルの回答については、次のカテゴリーや無回答(NR)を除いて、母集団比率の検定を行い、有意差の認められたものには、該当のセルに ** ($p < .01$) や * ($p < .05$) を施した。

問3; 選択肢3の「不定・不明」

問4; 選択肢5の「その他」

問5; 選択肢6の「その他」

別表-II 3現象の各場面における厳しい不使用の評価と各現象に対するイメージ評価とのクロス集計の結果をまとめたもの。

- ◎ 各セルの数値等は、すべて別表-Iに同じ。

- ◎ イメージ評価の3カテゴリーは、次の如く求めた。

12評価語を3語ずつ知的+・-、情的+・-の4グループに分け、その3語の回答値(「当てはまらない」=0点・「少しあてはまる」=1点・「良くあてはまる」=2点)の合計(0~6点)を回答者数のバランスを考え、[0・1][2・3][4~6]と3分割した。

- ◎ 各セルの回答については、無回答(NR)を除いて、母集団比率の検定を行い、有意差の認められたものには、該当のセルに ** ($p < .01$) や * ($p < .05$) を施した。

別表-III 問8の場面④⑥・問9の場面⑥⑦における3現象の使用に対する規範意識の現われ方と問1~問6の各属性との関連を「林の数量化理論II類」によって分析した結果(カテゴリースコア・レンジ順位など)を示したもの。

◎ 《目的変量》は、カテゴリーの統合を行ったりした、次の2項目である。これら以外のカテゴリー（「その他（問8・問9）」「わからない（問9）」）は、変量の均質性を高めるため扱わなかった。

問8；「使ってもかまわない・どちらかと言えば、使わない方が良い」対「絶対に使うべきではない」

問9；「その子供だけに注意する・クラス全員に注意する・その子供にもクラス全員にも注意する」対「注意・説明などは全くしない」

◎ 《説明変量》は、「印象」を除く、6アイテムで、用例0や「不定・不明（問3）」「その他（問4・問5）」のカテゴリーは扱わなかった。

<引用文献及び主な参考文献>

- 池上 禎造(1954)「言語生活研究の一意義」『国語国文』23-24
 ———(1960)「言語生活史としての国語史」『国語と国文学』37-10
 井上 史雄(1980)「方言のイメージ」『言語生活』-341
 ———(1985)『新しい日本語 —《新方言》の分布と変化—』(明治書院)
 ———(1986)「言葉の乱れの社会言語学」『日本語学』5-12
 井上 史雄・荻野 綱男(1985)『新しい言葉の伝播過程』(特定研究「言語の標準化」藤崎班報告書)
 宇野 義方(1980)『言語生活研究 —コミュニケーションの基本的問題—』(明治書院)
 ———(1986)『国語学叢書-12・言語生活史』(東京堂出版)
 国立国語研究所(1986)『社会変化と敬語行動の標準』(秀英出版)
 高橋 太郎(1963)「ことばの価値と価値意識」(『講座現代語-1・現代語の概説』明治書院)
 時枝 誠記(1947)「国語規範論の構想」(『言語生活論』(1976・岩波書店)所収)
 林達夫他監修(1971)『哲学辞典』(平凡社)
 本多 正久・島田 一明(1977)『経営のための多変量解析法』(産業能率大学出版部)
 山 県 浩(1987)「群馬県の若年層における方言使用の実態 —方言使用に対する規範意識研究序説—」『群馬大学教育実践研究』-4
 ———(1988a)「群馬方言における『地方共通語』」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』-37
 ———(1988b)「方言使用に対する規範意識の実態 —群馬県の大学生の場合—」『群馬大学教育実践研究』-5

注

- 1) 前稿では、規範意識の定義・構造・形成、評価意識との関係、一般的な言語意識の中での位置などについて、言及できなかった。本稿に至っても、これらについて筆者なりに捉えることができていないため、例えば、方言行動にかかわる基本的な規範意識は、前稿と同じく、《改まった場面では、いい言葉(≒共通語)を使わねばならない》などと考えておく。

そして、このような規範意識に基づいて、方言行動に対する評価——ある人物が、ある方言現象を、ある場面で用いることが適当か否か——が行われる。従って、第一に対象となるのは、特定の使用者・方言現象・場面等に即して現れる評価意識となる。

このため、規範意識の実態は、使用者・方言現象・場面等を違え、様々な角度から評価意識を捉えることによって、把握できると考えた。

- 2) 「言語意識」の1つの捉え方として、それを「知性的な言語意識」と「感性的な言語意識」とに分けて考える(山県 1988a 注(4)参照)。

この場合、本稿で扱う「印象」は、感性的な言語意識の代表である。一方、知性的な言語意識とは、再考の必要があるが、回答者の言語経験などに基づいて、その語・表現に対して「話しことば」「共通語」「俗語」等々の評価語を引き当てることと考えた。

知性的な言語意識に関する設問は設けなかったが、これは、回答者が大学生ということで、対象とした方言現象が「共通語ではない」「方言である」などと明確に認識されていると考えたためである。

- 3) 「印象」に関する別表-IIは、別表-Iの如く、アンケート結果をそのまま統計化したものではない(5章参照)。

従って、他の属性と並べて比較できるものではないが、その位置をみるため、*印を付して該当の位置に示した。

但し、データを別の方法で整理する、例えば、12評価語それぞれを3つの選択肢を持った1つの設問と見做して総合すると、少なくとも有意差の現われ方は大きく異ってくる。

- 4) 但し、男女差の現われ方は、問8と問9とでは些か異なる。

即ち、問8には、有意差が集中するとともに、5%以内の差は1場面にはしか見られない。一方、問9には、有意差が認められず、5%以内の差は6場面にも見られる。

この現象は、規範意識の厳しさが、回答者の性によって異なると同時に、使用者の年齢によって異なる、即ち、(C)ペーが「若い女性のことばとしてふさわしくない」と捉えられているためと考えられる。

- 5) 本稿で、場面番号の前に「*①」の如く「*」を付したものは、すべて、その属性のカテゴリーの中で、最高の回答率を示すカテゴリーの値と最低の回答率を示すカテゴリーの値との差が、10%以上ある場面を意味する。

- 6) <漸減>傾向の見られない場面について、回答率の最も低いカテゴリー、回答率の最も高いカテゴリーをみてゆくと、次の如くである。

(A)レル型; 回答率の最も低い所は、「時々使う」に集中するが、「良く使う」にも少し見られ、いずれにも有意差が認められる。回答率の最も高い所は、「使わない」に多く、有意差も認められる。

(B)カ 変; 回答率の最も低い所は、「良く使う」「時々使う」に多いが、有意差は前者にのみ認められる。回答率の最も高い所は、「たまに使う」に集中する。

(C)ペ ー; 回答率の最も低い所は、「良く使う」に集中し、有意差も認められる。回答率の最も高い所は、「たまに使う」に多いが、「時々使う」にも少なくない。

- 7) 問題は多いが、一応、「使用状況の変化」に、以前から現在までの累積的な使用頻度というものを考えてみた。そして、その低い順に、カテゴリーを「以前も現在も使っていない」「以前だけ使っていた」「以前の方が良く使っていた」「以前も現在も使っている」と並べたとき、この順序で該当の回答率が低くor高くなってゆく場合、何等かの関連性が存すると言えることになる(但し、(A)レル型だけの「現在だけ使っている」の回答は、他との比較のため、除いて考える)。

しかし、これらの例は稀で、回答率が高くなってゆく例は見られず、回答率が低くなってゆく例も、各現象に1場面ずつ見られるに過ぎない((A)レル型=問8; *⑥、(B)カ変=問8; *⑦、(C)ペー=問9; ④。但し、(A)レル型の1例(問8; ②)は、「以前も現在も使っていない」以外すべてが、回答0であるため、除外した)。

ただ、「現在の使用状況」のように、<漸増>傾向が全く見られず、<漸減>傾向が僅かながらも存することは、重視してよからう。

- 8) 場面ごとに回答率の最も低いカテゴリー、回答率の最も高いカテゴリーをみてゆくと、どの現象でも後者のカテゴリーに問題が多い。

(A)レル型; 回答率の最も低い所は、「以前も現在も使っている」に集中するが、「現在だけ使っている」にも少し見られる。有意差は前者にのみ認められる。回答率の最も高い所は、「以前だけ使っていた」に集中し、有意差も認められるが、この全回答者数が少ないためか、有意差は「以前も現在も使っていない」の方に多く認められる。

(B)カ変; 回答率の最も低い所は、「以前も現在も使っている」に集中する。回答率の最も高い所は、「以前だけ使っていた」に多いが、「以前も現在も使っていない」「以前の方が良く使っていた」にも少し見られる。有意差は、「以前だけ使っていた」にのみ認められる。

(C)ペー; 回答率の最も低い所は、「以前も現在も使っている」に集中するが、「以前だけ使っていた」にも少し見られる。有意差は前者にのみ認められる。回答率の最も高い所は、「以前も現在も使っていない」「以前の方が良く使っていた」「以前だけ使っていた」に分散し、「以前だけ使っていた」にのみ有意差が認められる。従って、「以前だけ使っていた」は、場面ごとに回答率が大きく異なる。

- 9) 取り上げた4場面(問8; ④⑥、問9; ⑥⑦)における有意差の現われ方は、次の如くである(別表-I参照)。

(A)レル型(全10)

問5 「使用状況の変化」-----5

問4 「現在の使用状況」-----3

問3 「出身地」-----1

問6 「指導の経験」-----1

(B)カ変(全1)

問4 「現在の使用状況」-----1

(C)ペー(全3)

問3 「出身地」-----2

問4 「現在の使用状況」-----1

全14場面の平均的な現われ方と比較すると、この4場面での現われ方は、(A)レル型でやや多め、(B)カ変・(C)ペーではかなり少なめである。また、個別的にみると、(A)レル型の問8の場面④は、(A)レル型で数少ない有意差の全く見られない場面、また、(C)ペー

一には「性」に有意差が多かったが、これらは有意差の全く見られない場面、等々。

従って、これら4場面は、各現象の平均的な姿を必ずしも表しておらず、注意が必要である。

- 10) 「出身地」との関連では、(A)レル型・(C)ペーの場合、「北部」において、それらの使用率が高く(山県 1988b 31章[22]項参照)、同時に、厳しい不使用の評価の回答率が低い(3章[33]項参照)。

また、「印象」との関連では、特に、(A)レル型の場合、「使用頻度が高くなるにつれて、情的評価の値も高くなる」という傾向が見られ(山県 1988b 32章[3]項参照)、同時に、情的プラス評価において、その値が高くなるにつれて、厳しい不使用の評価の回答率が低くなるという傾向が認められる(3章[52]項参照)。

いずれも、厳密に調査した結果ではないが、些か気になる点である。ただ、これは「現在の使用状況」を主体に考えた場合で、逆の立場で考えてみる必要もある。

- 11) 新しい概念を持ち出して、混乱を大きくするだけであるが、「社会的評価」とは、さしあたり、その地域社会の構成員が持っている最大公約数的な評価意識を考えている。

ここで問題となるのは、構成員たちが、成長につれて、その地域の方言とともにこの社会的評価をも身に付けてゆくという点である。

また、社会的評価の基盤とは、その現象が地域の構成員たちからどのくらい注目を集めているのか、どのくらい話題にされているのか等々、その現象に対する関心度・注目度のようなもので、その評価内容にもよるが、その地域社会において、どのくらい長い間、かつ、どのくらい幅広く用いられているのか、その使用や共通語との違いがどのくらい明確に意識されているのかなどによって決定され则认为。そして、この基盤が確かであるほど、家族や教師・友人などによって、その社会的評価が構成員たちに成長の過程で徹底されてゆくのである。

(最終稿; 1988年2月16日)

— 群馬大学教育学部講師 —

別表-I-A「レル」型の可能表現

		問8. 同性・同年齢の人物の使用							問9. 同性の児童の使用							全 回 答 者 数
		① 後 輩 との 雑 談	② 友 人 との 雑 談	③ 先 輩 との 雑 談	④ 教 官 との 雑 談	⑤ 講 義 の 発 表	⑥ 教 育 実 習 休 み 時 間	⑦ 教 育 実 習 授 業 中	① 作 文 中	② 校 内 放 送	③ 研 究 発 表	④ 意 見 発 表	⑤ 教 師 との 雑 談	⑥ 同 級 生 との 遊 び 中	⑦ 上 級 生 との 雑 談	
合 計		5 (3.1)	4 (2.5)	34 (21.4)	87 (54.7)	110 (69.2)	85 (53.5)	122 (76.7)	145 (91.2)	127 (79.9)	136 (85.5)	117 (73.6)	103 (64.8)	65 (40.9)	74 (46.5)	159
問1. 性	1. 男	1 (1.4)	2 (2.9)	13 (8.6)	31 (44.3)	46 (65.7)	33 (47.1)	53 (75.7)	63 (90.0)	56 (80.0)	59 (84.3)	50 (71.4)	46 (65.7)	31 (44.3)	31 (44.3)	70
	2. 女	4 (4.5)	2 (2.2)	21 (23.6)	56 (62.9)	64 (71.9)	52 (58.4)	69 (79.5)	82 (92.1)	71 (79.8)	77 (84.5)	67 (75.3)	57 (64.0)	34 (38.2)	43 (48.3)	89
問2. 学 年	1. 2 年	1 (2.0)	0 (0)	8 (16.0)	27 (54.0)	30 (60.0)	22 (44.0)	35 (70.0)	43 (86.0)	31** (62.0)	40 (80.0)	37 (74.0)	31 (62.0)	20 (40.0)	23 (46.0)	50
	2. 3 年	4 (4.4)	4 (4.4)	24 (26.4)	52 (57.1)	68 (74.7)	51 (56.0)	72 (79.1)	85 (93.4)	81* (89.0)	82 (90.1)	69 (75.8)	60 (66.4)	36 (38.6)	40 (44.0)	91
	3. 4 年	0 (0)	0 (0)	2 (11.1)	8 (44.4)	12 (66.7)	12 (66.7)	15 (75.3)	17 (84.4)	15 (73.3)	14 (77.8)	11 (61.1)	12 (64.7)	9 (50.0)	11 (61.1)	18
問3. 出 身 地	1. 西 部	1 (2.1)	2 (4.2)	11 (22.9)	25 (52.1)	36 (75.0)	28 (58.3)	37 (77.1)	42 (87.5)	40 (83.3)	40 (83.3)	34 (70.8)	34 (70.8)	23 (47.9)	22 (45.8)	48
	2. 中 央	4 (6.9)	2 (3.4)	13 (22.4)	32 (55.2)	42 (72.4)	31 (53.4)	47 (81.0)	54 (93.1)	45 (77.6)	49 (84.5)	45 (77.6)	37 (63.8)	26 (44.8)	35* (60.3)	58
	3. 東 部	0 (0)	0 (0)	6 (28.6)	15 (71.4)	16 (76.2)	10 (47.6)	15 (71.4)	19 (90.5)	15 (71.4)	19 (90.5)	18 (85.7)	15 (71.4)	6 (28.6)	7 (33.3)	21
	4. 北 部	0 (0)	0 (0)	4 (13.8)	15 (51.7)	16 (53.2)	16 (53.2)	23 (79.3)	28 (96.6)	26 (89.7)	26 (89.7)	19 (65.5)	17 (58.6)	10 (34.5)	10 (34.5)	29
	5. 不 定・不 明	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (9.1)	1 (4.5)	2 (9.1)	1 (4.5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3
問4. 現 在 の 使 用 状 況	1. 良く使う	0 (0)	1 (3.3)	4 (13.3)	17 (56.7)	18 (60.0)	8** (26.7)	18* (60.0)	24* (80.0)	17** (56.7)	21* (70.0)	18 (60.0)	15 (50.0)	8 (26.7)	12 (40.0)	30
	2. 時々使う	0 (0)	0 (0)	4 (9.5)	18 (42.9)	22* (52.4)	17 (40.5)	26* (61.9)	36 (86.7)	29 (69.0)	32 (76.2)	27 (64.3)	23 (58.8)	11 (26.2)	16 (38.1)	42
	3. たまに使う	2 (4.0)	0 (0)	11 (22.0)	28 (56.0)	37 (74.0)	29 (58.0)	42 (84.0)	45 (90.0)	47 (94.0)	40 (80.0)	37 (74.0)	37 (74.0)	22 (44.0)	23 (46.0)	50
	4. 使わない	1 (2.9)	1 (2.9)	13* (38.2)	22 (44.7)	30* (60.4)	29** (58.3)	33** (77.1)	33 (77.1)	33* (77.1)	33 (77.1)	29 (65.5)	26 (65.5)	22** (44.7)	21 (61.8)	34
	5. その他	2 (2.9)	2 (2.9)	2 (4.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	2 (4.0)	3
問5. 使 用 状 況 の 変 化	1. 以前も現在も 使っている	1 (1.2)	0 (0)	11 (13.3)	38 (45.8)	46** (55.4)	30** (36.1)	53** (63.9)	73 (88.0)	60 (72.3)	67 (80.7)	56 (67.5)	46 (55.4)	22** (26.5)	33 (39.8)	83
	2. 以前も現在も 使っていない	3* (9.4)	4** (12.5)	11 (13.4)	21 (25.6)	28* (34.5)	27** (32.4)	30* (36.1)	31 (37.6)	29 (35.4)	31 (37.6)	26 (31.3)	24 (29.0)	20* (24.5)	16 (19.5)	32
	3. 以前の方が 良く使っていた	0 (0)	0 (0)	3 (3.7)	7 (8.6)	10 (12.3)	7 (8.6)	11 (13.4)	13 (15.8)	12 (14.6)	12 (14.6)	12 (14.6)	10 (12.3)	6 (7.4)	5 (6.1)	13
	4. 以前だけ 使っていた	0 (0)	0 (0)	4** (4.9)	4 (4.9)	6 (7.4)	4 (4.9)	6 (7.4)	6 (7.4)	6 (7.4)	6 (7.4)	6 (7.4)	5 (6.1)	4 (4.9)	6* (7.4)	6
	5. 現在だけ 使っている	0 (0)	0 (0)	3 (3.7)	14 (17.3)	17 (20.7)	15 (18.2)	19 (22.9)	19 (22.9)	19 (22.9)	17 (20.7)	15 (18.2)	16 (19.5)	11 (13.4)	12 (14.6)	22
	6. その他	1 (1.2)	0 (0)	2 (2.5)	3 (3.7)	3 (3.7)	2 (2.5)	3 (3.7)	3 (3.7)	1 (1.2)	3 (3.7)	2 (2.5)	2 (2.5)	2 (2.5)	2 (2.5)	3
問6. 指 導 の 経 験	1. ある	2 (5.0)	2 (5.0)	10 (12.5)	23 (28.5)	32 (39.5)	30** (37.5)	35 (43.8)	38 (47.5)	33 (41.3)	36 (45.0)	32 (40.0)	29 (36.3)	22 (27.5)	23 (28.5)	40
	2. ない	1 (1.1)	2 (2.2)	18 (22.5)	49 (60.5)	59 (73.8)	43 (53.8)	66 (82.5)	82 (102.5)	74 (92.5)	75 (93.8)	63 (78.8)	55 (68.8)	33 (41.3)	38 (47.5)	93
	3. わからない	2 (5.0)	0 (0)	6 (7.5)	14 (17.5)	18 (22.5)	11 (13.8)	20 (25.0)	24 (30.0)	19 (23.8)	24 (30.0)	21 (26.3)	18 (22.5)	10 (12.5)	13 (16.3)	25
	N R	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0)	0 (0)	1

(32)

別表-I-B カ変の上一段化現象

		問8. 同性・同年齢の人物の使用							問9. 同性の児童の使用							全回答者数
		① 後輩との雑談	② 友人との雑談	③ 先輩との雑談	④ 教官との雑談	⑤ 講義での発表	⑥ 教育実習・休み時間	⑦ 教育実習・授業中	① 作文中	② 校内放送	③ 研究発表	④ 意見発表	⑤ 教師との雑談	⑥ 同級生との遊び中	⑦ 上級生との雑談	
合 計		4 (2.2)	3 (2.1)	24 (16.6)	76 (52.4)	109 (75.2)	70 (48.3)	118 (81.4)	130 (89.7)	122 (84.1)	132 (91.0)	122 (84.1)	90 (62.1)	62 (42.8)	72 (49.7)	145
問1. 性	1. 男	2 (3.4)	2 (3.4)	11 (9.0)	30 (51.7)	40 (69.0)	27 (46.4)	43 (74.1)	50 (86.2)	48 (82.8)	53 (91.4)	52 (87.7)	38 (65.5)	29 (50.0)	32 (55.2)	58
	2. 女	2 (2.3)	1 (1.1)	13 (14.9)	46 (52.4)	69 (79.3)	43 (49.4)	75 (86.2)	80 (92.0)	74 (85.1)	79 (90.8)	70 (80.5)	52 (59.8)	33 (37.9)	40 (46.0)	87
問2. 学 年	1. 2 年	0 (0)	0 (0)	6 (15.0)	19 (47.5)	25 (62.5)	18 (45.0)	29 (72.5)	35 (87.5)	33 (82.5)	36 (90.0)	36 (90.0)	27 (67.5)	21 (52.5)	22 (55.0)	40
	2. 3 年	4 (4.8)	3 (3.6)	14 (16.9)	46 (55.4)	67 (80.7)	38 (45.8)	70 (84.3)	76 (91.6)	73 (88.0)	78 (94.0)	70 (84.3)	51 (61.4)	32 (38.6)	40 (48.2)	83
	3. 4 年	0 (0)	0 (0)	4 (12.2)	11 (50.0)	17 (77.3)	14 (63.6)	19 (86.4)	19 (86.4)	16 (72.7)	18 (81.8)	16 (72.7)	12 (54.5)	9 (40.9)	10 (45.5)	22
問3. 出 身 地	1. 西 部	2 (4.7)	1 (2.3)	7 (16.3)	22 (51.2)	30 (68.8)	18 (41.9)	32 (74.4)	38 (88.4)	37 (86.0)	41 (95.3)	37 (86.0)	26 (60.4)	21 (49.8)	25 (58.1)	43
	2. 中 央	1 (1.8)	1 (1.8)	8 (14.0)	32 (56.1)	42 (73.7)	31 (54.4)	47 (82.5)	52 (91.2)	49 (86.0)	52 (91.2)	49 (86.0)	37 (64.9)	27 (47.9)	30 (52.4)	57
	3. 東 部	1 (5.6)	1 (5.6)	5 (22.8)	11 (61.1)	15 (83.3)	10 (55.6)	16 (88.9)	16 (88.9)	14 (79.8)	15 (83.3)	13 (72.2)	10 (55.6)	6 (33.3)	7 (38.9)	18
	4. 北 部	0 (0)	0 (0)	3 (13.0)	9 (39.1)	19 (72.6)	11 (47.8)	19 (82.6)	20 (87.0)	19 (82.6)	20 (87.0)	19 (82.6)	14 (60.9)	7 (30.4)	8 (36.8)	23
	5. 不定・不明	0 (0)	0 (0)	1 (2.5)	2 (9.1)	3 (13.6)	0 (0)	4 (17.8)	4 (17.8)	3 (13.0)	4 (17.8)	4 (17.8)	3 (13.0)	1 (4.3)	2 (9.1)	4
問4. 現 在 の 使 用 状 況	1. 良く使う	0 (0)	0 (0)	3 (12.5)	12 (50.0)	13 (54.2)	5 (20.8)	15 (62.5)	19 (77.2)	19 (77.2)	20 (83.3)	19 (77.2)	12 (50.0)	9 (37.5)	11 (45.8)	24
	2. 時々使う	0 (0)	0 (0)	3 (12.5)	12 (50.0)	19 (77.2)	13 (54.2)	19 (77.2)	24 (95.7)	21 (85.0)	25 (83.3)	24 (83.3)	18 (75.0)	11 (45.8)	15 (62.5)	28
	3. たまに使う	1 (4.2)	1 (4.2)	7 (28.0)	24 (96.0)	30 (120.0)	19 (76.0)	32 (128.0)	32 (128.0)	33 (132.0)	33 (132.0)	31 (124.0)	24 (96.0)	13 (52.0)	16 (64.0)	35
	4. 使わない	3 (12.5)	2 (8.0)	11 (44.0)	28 (112.0)	47 (188.0)	33 (132.0)	52 (208.0)	55 (220.0)	49 (196.0)	54 (216.0)	48 (192.0)	36 (144.0)	29 (116.0)	30 (120.0)	58
	5. その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
問5. 使 用 状 況 の 変 化	1. 以前も現在も使っている	0 (0)	0 (0)	8 (32.0)	28 (112.0)	37 (148.0)	21 (84.0)	41 (164.0)	47 (188.0)	47 (188.0)	51 (204.0)	47 (188.0)	34 (136.0)	22 (88.0)	29 (116.0)	57
	2. 以前も現在も使っていない	1 (4.2)	0 (0)	6 (24.0)	17 (68.0)	33 (132.0)	21 (84.0)	35 (140.0)	36 (144.0)	31 (124.0)	35 (140.0)	32 (128.0)	24 (96.0)	19 (76.0)	20 (80.0)	38
	3. 以前の方が良く使っていた	1 (4.2)	1 (4.2)	5 (20.0)	19 (76.0)	24 (96.0)	16 (64.0)	24 (96.0)	27 (108.0)	25 (100.0)	26 (104.0)	26 (104.0)	19 (76.0)	11 (44.0)	13 (52.0)	29
	4. 以前だけ使っていた	2 (8.4)	2 (8.4)	5 (20.0)	12 (48.0)	15 (60.0)	12 (48.0)	18 (72.0)	20 (80.0)	19 (76.0)	20 (80.0)	17 (68.0)	13 (52.0)	10 (40.0)	10 (40.0)	21
	5. 現在だけ使っている	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6. その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
問6. 指 導 の 経 験	1. あ る	1 (4.2)	1 (4.2)	5 (20.0)	22 (88.0)	32 (128.0)	18 (72.0)	36 (144.0)	45 (180.0)	42 (168.0)	44 (176.0)	38 (152.0)	27 (108.0)	20 (80.0)	25 (100.0)	47
	2. な い	2 (8.4)	1 (4.2)	9 (36.0)	33 (132.0)	47 (188.0)	30 (120.0)	50 (200.0)	50 (200.0)	50 (200.0)	53 (212.0)	50 (200.0)	37 (148.0)	23 (92.0)	26 (104.0)	59
	3. わからない	0 (0)	0 (0)	9 (36.0)	19 (76.0)	28 (112.0)	20 (80.0)	30 (120.0)	33 (132.0)	28 (112.0)	33 (132.0)	32 (128.0)	24 (96.0)	17 (68.0)	19 (76.0)	37
N R		1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

別表-I-C「べー」表現

(33)

		問8. 同性・同年齢の人物の使用							問9. 同性の児童の使用							全 回 答 者 数
		① 後 輩 と の 雑 談	② 友 人 と の 雑 談	③ 先 輩 と の 雑 談	④ 教 官 と の 雑 談	⑤ 講 義 で の 発 表	⑥ 教 育 実 習 休 み 時 間	⑦ 教 育 実 習 授 業 中	① 作 文 中	② 校 内 放 送	③ 研 究 発 表	④ 意 見 発 表	⑤ 教 師 と の 雑 談	⑥ 同 級 生 と の 遊 び 中	⑦ 上 級 生 と の 雑 談	
合 計		19 (13.0)	13 (8.9)	56 (38.4)	116 (79.5)	132 (90.4)	84 (57.5)	121 (82.9)	104 (71.2)	120 (82.2)	124 (84.9)	114 (78.1)	77 (52.7)	41 (28.1)	73 (50.0)	146
問1. 性	1. 男	2* (3.0)	1* (1.5)	16* (23.9)	49 (73.1)	58 (86.6)	37 (55.2)	53 (77.1)	47 (70.1)	55 (82.1)	54 (80.6)	52 (77.6)	34 (50.7)	17 (25.4)	33 (49.3)	67
	2. 女	17* (21.5)	12* (15.2)	40* (50.6)	67 (84.8)	74 (93.7)	47 (59.5)	68 (86.1)	57 (72.2)	65 (82.3)	70 (88.6)	62 (78.5)	43 (54.4)	24 (30.4)	40 (50.6)	79
問2. 学 年	1. 2 年	2* (3.8)	2 (3.8)	18 (34.6)	40 (76.7)	46 (82.5)	30 (57.7)	40 (76.9)	36 (69.2)	39 (75.0)	42 (80.3)	40 (76.9)	24 (44.2)	10 (19.2)	23 (44.2)	52
	2. 3 年	12 (16.0)	9 (12.0)	30 (40.0)	61 (81.3)	69 (92.0)	40 (53.3)	64 (85.3)	54 (72.0)	66 (88.0)	67 (89.3)	61 (81.3)	42 (56.0)	23 (30.7)	40 (53.3)	75
	3. 4 年	5 (6.3)	2 (2.6)	8 (10.5)	15 (21.1)	17 (24.7)	14 (19.5)	17 (23.7)	14 (19.1)	15 (20.8)	15 (20.8)	13 (18.4)	11 (15.7)	8 (11.1)	10 (13.6)	19
問3. 出 身 地	1. 西 部	8 (12.6)	7 (9.3)	18 (24.4)	37 (50.3)	41 (55.3)	25 (33.1)	36 (48.7)	31 (41.9)	36 (48.7)	37 (50.0)	35 (47.4)	24 (32.8)	12 (16.1)	19 (25.3)	43
	2. 中 央	5 (7.8)	2 (3.9)	19 (25.3)	37 (50.3)	46 (61.9)	33 (44.7)	44 (59.3)	41 (54.7)	42 (56.4)	45 (60.3)	42 (56.4)	33 (44.7)	21* (28.2)	30 (40.0)	51
	3. 東 部	1 (1.3)	1 (1.3)	9 (12.0)	19 (25.3)	11 (14.7)	16 (21.6)	15 (20.0)	15 (20.0)	19 (25.3)	21 (28.2)	17 (22.7)	10 (13.6)	5 (6.7)	12 (16.1)	23
	4. 北 部	5 (6.8)	3 (4.0)	9 (12.0)	20 (26.7)	23 (30.7)	13 (17.3)	22 (29.3)	15 (20.0)	21 (28.2)	19 (25.3)	18 (24.0)	9 (12.0)	2* (2.6)	11 (14.7)	25
	5. 不 定・不 明	0	0	1	3	3	2	3	2	2	2	2	1	1	1	4
問4. 現 在 の 使 用 状 況	1. 良く使う	0* (0)	0 (0)	6* (7.8)	25 (33.1)	30 (40.0)	13* (17.3)	28 (37.3)	25 (33.1)	27 (36.0)	26 (34.7)	25 (33.1)	14 (18.7)	8 (10.7)	16 (21.3)	35
	2. 時々使う	1 (1.3)	0 (0)	5 (6.7)	16 (21.3)	19 (25.3)	13 (17.3)	17 (22.7)	15 (20.0)	16 (21.3)	18 (24.0)	16 (21.3)	10 (13.6)	3 (4.0)	11 (14.7)	20
	3. たまに使う	2 (2.6)	1 (1.3)	10 (13.6)	16 (21.3)	17 (22.7)	13 (17.3)	14 (18.7)	12 (16.1)	17 (22.7)	15 (20.0)	14 (18.7)	11 (14.7)	7 (9.3)	10 (13.6)	18
	4. 使わない	15* (20.0)	12* (16.1)	34 (45.3)	58 (77.3)	65 (86.7)	44 (58.7)	61 (81.3)	52 (69.3)	60 (80.0)	64 (85.3)	58 (77.3)	41 (54.7)	23 (30.7)	36 (47.4)	72
	5. その他	1	0	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1
問5. 使 用 状 況 の 変 化	1. 以前も現在も 使っている	0** (0)	0* (0)	13 (17.3)	39 (51.3)	45 (60.3)	26 (34.7)	39 (51.3)	38 (50.7)	41 (54.7)	39 (51.3)	38 (50.7)	24 (32.0)	13 (17.3)	25 (33.1)	51
	2. 以前も現在も 使っていない	10 (13.6)	8 (10.7)	22 (29.3)	43 (57.3)	49 (65.3)	33 (44.7)	46 (61.3)	39 (51.3)	45 (59.3)	47 (62.7)	43 (57.3)	32 (42.7)	18 (23.7)	29 (38.7)	53
	3. 以前の方が 良く使っていた	3 (4.0)	1 (1.3)	8 (10.7)	18 (23.7)	21 (28.2)	13 (17.3)	20 (26.7)	14 (18.7)	19 (25.3)	20 (26.7)	17 (22.7)	11 (14.7)	5 (6.7)	12 (16.1)	22
	4. 以前だけ 使っていた	6* (8.0)	4 (5.3)	12* (16.1)	15 (20.0)	16 (21.3)	11 (14.7)	15 (20.0)	12 (16.1)	14 (18.7)	17 (22.7)	15 (20.0)	9 (12.0)	5 (6.7)	6 (8.0)	19
	5. 現在だけ 使っている	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6. その他	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1
問6. 指 導 の 経 験	1. あ る	4 (5.3)	2 (2.6)	14* (18.7)	20 (26.7)	21 (28.2)	16 (21.3)	20 (26.7)	16 (21.3)	19 (25.3)	20 (26.7)	19 (25.3)	15 (20.0)	10 (13.6)	14 (18.7)	23
	2. な い	11 (14.7)	7 (9.3)	31 (41.3)	78 (103.7)	91 (121.3)	57 (75.3)	84 (112.0)	74 (98.7)	84 (112.0)	86 (114.7)	80 (106.7)	51 (68.0)	27 (36.0)	49 (65.3)	103
	3. わからない	3 (4.0)	3 (4.0)	10 (13.6)	17 (22.7)	19 (25.3)	10 (13.6)	16 (21.3)	14 (18.7)	16 (21.3)	17 (22.7)	14 (18.7)	11 (14.7)	4 (5.3)	9 (12.0)	19
	N R	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1

別表-Ⅱ イメージ評価

		問8. 同性・同年齢の人物の使用							問9. 同性の児童の使用							全 回 答 者 数
		① 後 輩 と の 雑 談	② 友 人 と の 雑 談	③ 先 輩 と の 雑 談	④ 教 官 と の 雑 談	⑤ 講 義 で の 発 表	⑥ 教 育 実 習 休 み 時 間	⑦ 教 育 実 習 授 業 中	① 作 文 中	② 校 内 放 送	③ 研 究 発 表	④ 意 見 発 表	⑤ 教 師 と の 雑 談	⑥ 同 級 生 と の 遊 び 中	⑦ 上 級 生 と の 雑 談	
(A)「 レ」型の可能表現	全 体	5 (3.1)	4 (2.5)	34 (21.4)	87 (54.7)	110 (69.2)	85 (53.5)	122 (76.7)	145 (91.2)	127 (79.9)	136 (85.5)	117 (73.6)	103 (64.8)	65 (40.9)	74 (46.5)	159
	①~③ 知的 プラス	0.1 (4.4)	4 (3.3)	21 (13.1)	54 (33.3)	69 (42.5)	55 (34.0)	76 (47.5)	84 (51.7)	74 (45.7)	81 (50.0)	69 (42.7)	63 (39.4)	39 (24.2)	43 (26.7)	91
	2.3	0 (0)	0 (0)	9 (5.7)	25 (15.9)	30 (18.8)	20 (12.7)	33 (20.4)	43 (26.8)	38 (23.9)	40 (25.1)	34 (21.3)	25 (15.9)	18 (11.3)	21 (13.2)	48
	4~6	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.5)	8 (5.1)	11 (6.9)	9 (5.7)	12 (7.4)	17 (10.7)	14 (8.7)	14 (8.7)	13 (8.1)	14 (8.7)	7 (4.4)	9 (5.7)	19
	N R	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	④~⑥ 情的 プラス	0.1 (5.4)	3 (3.3)	24 (15.1)	56 (34.9)	70 (43.7)	65** (40.7)	78 (48.3)	86 (52.4)	76 (46.4)	82 (50.3)	72 (44.9)	64 (39.9)	43 (26.7)	45 (28.6)	92
	2.3	0 (0)	1 (0.6)	5 (3.1)	16** (10.1)	27 (16.6)	13** (8.1)	30 (18.6)	41 (25.5)	36 (22.5)	36 (22.5)	29 (18.4)	28 (17.7)	14 (8.7)	18 (11.3)	45
	4~6	0 (0)	0 (0)	5 (3.1)	15 (9.4)	13 (8.1)	6* (3.7)	13 (8.1)	17 (10.7)	14 (8.7)	17 (10.7)	15 (9.4)	10 (6.3)	7 (4.4)	10 (6.3)	21
	N R	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	⑦~⑨ 知的 マイナス	0.1 (3.6)	2 (1.3)	20 (12.7)	60 (37.6)	75 (46.7)	61 (38.3)	85 (52.5)	103 (64.4)	88 (54.5)	96 (59.3)	83 (51.3)	73 (45.4)	44 (27.3)	49 (30.5)	112
	2.3	1 (0.6)	2 (1.3)	11 (6.9)	22 (13.7)	30 (18.8)	21 (13.0)	31 (19.5)	35 (21.8)	32 (20.0)	33 (20.4)	27 (16.6)	23 (14.7)	17 (10.7)	20 (12.6)	39
	4~6	0 (0)	0 (0)	3 (1.9)	5 (3.1)	5 (3.1)	2 (1.3)	5 (3.1)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	3 (1.9)	4 (2.5)	7
	N R	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	⑩~⑫ 情的 マイナス	0.1 (3.8)	4 (2.5)	23 (14.4)	56 (34.9)	71 (43.7)	55 (34.0)	80 (49.4)	95 (58.0)	84 (51.3)	88 (54.5)	77 (47.5)	65 (39.9)	41 (25.5)	52 (32.3)	104
	2.3	1 (0.6)	1 (0.6)	9 (5.7)	28 (17.7)	32 (20.0)	25 (15.9)	35 (21.8)	42 (26.1)	36 (22.5)	40 (25.1)	33 (20.4)	30 (18.8)	20 (12.6)	17 (10.7)	46
	4~6	0 (0)	1 (0.6)	2 (1.3)	3 (1.9)	4 (2.5)	4 (2.5)	6 (3.7)	7 (4.4)	6 (3.7)	7 (4.4)	6 (3.7)	7 (4.4)	3 (1.9)	4 (2.5)	8
	N R	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
(B)力変の上二段化現象	全 体	4 (2.6)	3 (1.9)	24 (15.1)	76 (47.5)	109 (67.6)	70 (43.7)	118 (73.5)	130 (81.7)	122 (76.7)	132 (81.1)	122 (76.7)	90 (55.2)	62 (38.7)	72 (45.3)	145
	①~③ 知的 プラス	0.1 (2.3)	2 (1.3)	22 (13.7)	69 (42.5)	100 (62.3)	65 (40.7)	107 (65.7)	118 (73.5)	111 (68.5)	120 (74.4)	110 (68.5)	83 (51.3)	57 (35.8)	67 (41.2)	131
	2.3	1 (0.6)	1 (0.6)	6 (3.7)	8 (5.1)	4 (2.5)	4 (2.5)	9 (5.7)	10 (6.3)	9 (5.7)	10 (6.3)	10 (6.3)	5 (3.1)	3 (1.9)	3 (1.9)	12
	4~6	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2 (1.3)	2
	④~⑥ 情的 プラス	0.1 (3.9)	2 (1.3)	15 (9.4)	40 (25.1)	56 (34.9)	40 (25.1)	62 (38.3)	69 (42.5)	63 (39.4)	68 (42.5)	62 (38.3)	46 (28.6)	34 (21.3)	39 (24.2)	77
	2.3	1 (0.6)	1 (0.6)	6 (3.7)	19 (11.9)	28 (17.7)	16 (10.1)	30 (18.8)	33 (20.4)	32 (20.0)	35 (21.8)	35 (21.8)	21 (13.0)	13 (8.1)	18 (11.3)	37
	4~6	0 (0)	0 (0)	3 (1.9)	17 (10.7)	25 (15.9)	14 (8.7)	26 (16.3)	28 (17.7)	27 (16.6)	29 (18.3)	25 (15.9)	23 (14.7)	15 (9.4)	15 (9.4)	31
	⑦~⑨ 知的 マイナス	0.1 (3.2)	2 (1.3)	12 (7.4)	46 (28.6)	70 (43.7)	44 (27.3)	74 (45.7)	82 (50.3)	78 (48.3)	83 (50.9)	75 (46.4)	54 (33.3)	36 (22.5)	41 (25.5)	94
	2.3	1 (0.6)	1 (0.6)	10 (6.3)	25 (15.9)	33 (20.4)	21 (13.0)	37 (23.1)	42 (26.1)	38 (23.9)	43 (26.8)	41 (25.5)	30 (18.8)	23 (14.7)	29* (18.2)	44
	4~6	0 (0)	0 (0)	2 (1.3)	5 (3.1)	6 (3.7)	5 (3.1)	7 (4.4)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	6 (3.7)	3 (1.9)	2 (1.3)	7
	⑩~⑫ 情的 マイナス	0.1 (2.9)	2 (1.3)	9 (5.7)	37 (23.1)	47 (29.2)	35 (21.8)	53 (32.5)	61 (37.6)	61 (37.6)	61 (37.6)	58 (36.0)	43 (26.7)	30 (18.8)	36 (22.5)	70
	2.3	1 (0.6)	1 (0.6)	11 (6.9)	28 (17.7)	48 (29.8)	28 (17.7)	49 (30.4)	53 (32.5)	46 (28.6)	55 (34.0)	48 (29.8)	37 (23.1)	25 (15.9)	29 (18.2)	58
	4~6	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.5)	11 (6.9)	14 (8.7)	7 (4.4)	16 (10.1)	16 (10.1)	15 (9.4)	16 (10.1)	16 (10.1)	10 (6.3)	7 (4.4)	7 (4.4)	17

		問8. 同性・同年齢の人物の使用								問9. 同性の児童の使用								全 回 答 者 数
		① 後 輩 との 雑 談	② 友 人 との 雑 談	③ 先 輩 との 雑 談	④ 教 官 との 雑 談	⑤ 講 義 で の 発 表	⑥ 教 育 実 習 休 み 時 間	⑦ 教 育 実 習 授 業 中	⑧ 作 文 中	⑨ 校 内 放 送	⑩ 研 究 発 表	⑪ 意 見 発 表	⑫ 教 師 との 雑 談	⑬ 同 級 生 との 遊 び 中	⑭ 上 級 生 との 雑 談			
(c)「ベ」表現	全 体	19 (13.0)	13 (8.9)	56 (38.4)	116 (79.5)	132 (90.4)	84 (57.5)	121 (82.9)	104 (71.2)	120 (82.2)	124 (84.9)	114 (78.1)	77 (52.7)	41 (28.1)	73 (50.0)	146		
	①~③ 知的 プラス	0・1 (13.3)	12 (8.9)	53 (39.3)	107 (79.3)	122 (90.4)	82 (60.7)	112 (83.0)	97 (71.9)	110 (81.5)	116 (85.9)	106 (78.5)	73 (50.1)	39 (28.9)	67 (49.6)	135		
		2・3 (9.1)	1 (9.1)	3 (27.3)	9 (81.8)	10 (90.9)	2* (8.2)	9 (81.8)	7 (63.6)	10 (90.9)	8 (72.7)	8 (72.7)	4 (36.4)	2 (18.2)	6 (54.5)	11		
		4~6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	④~⑥ 情的 プラス	0・1 (3.4)	1 (3.4)	16 (55.2)	26 (89.7)	27 (93.1)	20 (69.0)	26 (89.7)	22 (75.9)	23 (79.3)	24 (82.8)	23 (79.3)	19 (65.5)	9 (31.0)	14 (48.3)	29		
		2・3 (13.3)	4 (6.7)	17 (28.3)	48 (80.0)	54 (90.0)	38 (63.3)	52 (86.7)	42 (70.0)	51 (85.0)	52 (84.7)	47 (78.3)	33 (55.0)	16 (26.7)	31 (51.7)	60		
		4~6 (17.5)	8 (14.0)	23 (40.4)	42 (73.7)	51 (89.5)	26 (45.6)	43 (75.4)	40 (70.2)	46 (80.7)	48 (89.2)	44 (77.2)	25 (43.9)	16 (28.1)	28 (49.1)	57		
	⑦~⑨ 知的 マイナス	0・1 (13.6)	5 (7.6)	27 (40.9)	55 (83.3)	62 (93.9)	38 (57.6)	56 (84.8)	47 (71.2)	53 (80.3)	53 (80.3)	48 (72.7)	34 (51.5)	18 (27.3)	29 (43.9)	66		
		2・3 (11.5)	6 (11.5)	19 (36.5)	40 (76.9)	44 (84.6)	29 (55.8)	41 (78.8)	35 (67.3)	44 (84.6)	46 (88.5)	43 (82.7)	26 (50.0)	17 (32.7)	29 (55.8)	52		
		4~6 (14.3)	2 (7.1)	10 (35.7)	21 (75.0)	26 (92.9)	17 (60.7)	24 (85.7)	22 (78.6)	23 (82.1)	25 (89.3)	23 (82.1)	17 (60.7)	6 (21.4)	15 (53.6)	28		
	⑩~⑭ 情的 マイナス	0・1 (3.6)	0 (0)	9 (32.1)	18* (64.3)	23 (82.1)	16 (57.1)	18** (64.3)	21 (75.0)	20 (71.4)	18** (64.3)	17* (60.7)	13 (46.4)	5 (17.9)	11 (39.3)	28		
		2・3 (13.5)	6 (8.1)	28 (37.8)	62 (83.8)	68 (91.9)	43 (57.1)	65 (87.8)	52 (70.3)	63 (85.1)	67 (90.5)	62 (83.8)	43 (58.1)	26 (35.1)	42 (56.8)	74		
	4~6 (18.2)	7 (16.9)	19 (43.2)	36 (81.8)	41 (93.2)	25 (56.8)	38 (86.4)	31 (70.5)	37 (84.1)	39 (88.6)	35 (79.5)	21 (49.7)	10 (22.7)	20 (45.5)	44			

別表-Ⅲ 林Ⅱ類による分析

		問8. ④ 教官との雑談						問8. ⑤ 教育実習：休み時間					
		W レル型		D カ変		C バー		W レル型		D カ変		C バー	
選択肢1・2/選択肢3 (%)		63 / 81 (54.3)		66 / 72 (52.2)		28 / 110 (19.7)		69 / 80 (53.7)		71 / 68 (49.7)		59 / 79 (57.2)	
アイテ	カテゴリー	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)
問1. 性別	1. 男	0.1412	0.2574	-0.0174	0.0289	0.1801	0.3404	0.0405	0.0745	-0.0042	0.0071	-0.0202	0.1517
	2. 女	-0.1162	(③)	0.0115	(⑤)	-0.1604	(②)	-0.0340	(③)	0.0029	(④)	0.0714	(④)
問2. 学年	1. 2 年	-0.0295	0.1525	0.0382	0.0626	-0.0150	0.0383	0.0086	0.0466	0.0028	0.1789	-0.0016	0.2591
	2. 3 年	-0.0110	(⑤)	-0.0244	(④)	0.0157	(④)	0.0034	(④)	0.0383	(③)	0.0527	(②)
	3. 4 年	0.1231		0.0198		-0.0226		-0.0379		-0.1406		-0.2065	
問3. 出身地	1. 西部	0.0123	0.2407	0.0073	0.2218	-0.0527	0.1624	-0.0726	0.1803	0.0445	0.0921	-0.0030	0.1512
	2. 中部	0.0494		-0.0366		0.0774		0.0239		-0.0243		-0.0591	
	3. 東部	-0.1914		-0.0795		-0.0850		0.1077		-0.0476		0.0921	
	4. 北部	0.0316		0.1423		0.0156		-0.0111		0.0122		0.0378	
問4. 現在の使用状況	1. 良く使う	-0.2279	0.5233	-0.1114	0.4624	-0.0866	0.3952	0.2829	0.9791	0.5194	1.0088	0.1859	0.3514
	2. 時々使う	0.0184		-0.0128		-0.1439		0.2480		0.2793		-0.1283	
	3. たまに使う	-0.0956		-0.2571		-0.2459		0.1069		0.2167		-0.1656	
	4. 使わない	0.2954		0.2053		0.1473		-0.6962		-0.4874		-0.0140	
問5. 使用状況の変化	1. 以前も現在も使っている	0.1625	0.6455	0.1611	0.3843	0.0377	0.0779	-0.0759	0.8566	-0.2395	0.7375	0.0627	0.2407
	2. 以前も現在も使っていない	-0.4053		-0.1261		-0.0372		0.3436		0.4201		-0.1169	
	3. 以前の方がよく使っていた	0.0441		0.0142		0.0258		-0.1225		-0.3174		0.1238	
	4. 以前だけ使っていた	-0.4830		-0.2232		-0.0382		0.5882		0.3505		-0.0036	
	5. 現在だけ使っている	0.0418						-0.2684					
問6. 指導者の経験	1. ある	0.0457	0.0663	0.0464	0.0770	-0.0907	0.1267	-0.1727	0.2345	0.0894	0.1488	-0.0627	0.1068
	2. ない	-0.0206		-0.0306		0.0360		0.0584		-0.0347		0.0056	
	3. わからない	0.0040		-0.0111		-0.0785		0.0618		-0.0594		0.0440	

		問9. ⑥ 同級生との遊び中						問9. ⑦ 上級生との雑談					
		W レル型		D カ変		C バー		W レル型		D カ変		C バー	
選択肢1・2/選択肢4 (%)		61 / 56 (42.9)		59 / 61 (50.8)		40 / 80 (66.7)		70 / 45 (39.1)		68 / 52 (43.3)		70 / 51 (42.1)	
アイテ	カテゴリー	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)	カテゴリスコア	レンジ(順位)
問1. 性別	1. 男	0.0364	0.0698	0.0758	0.1358	-0.0025	0.0047	-0.0455	0.0858	0.0552	0.0975	-0.0610	0.1172
	2. 女	-0.0334	(④)	-0.0600	(③)	0.0022	(④)	0.0403	(⑤)	-0.0422	(④)	0.0562	(④)
問2. 学年	1. 2 年	0.0656	0.0997	0.0840	0.1192	-0.1335	0.2291	0.0076	0.0680	0.0717	0.1154	-0.0699	0.1141
	2. 3 年	-0.0341		-0.0352		0.0648		-0.0167		-0.0212		0.0442	
	3. 4 年	0.0044		-0.0261		0.0956		0.0514		-0.0437		0.0046	
問3. 出身地	1. 西部	0.0392	0.1752	0.0974	0.2595	-0.0142	0.3420	-0.0216	0.2289	0.1107	0.3140	-0.0422	0.1978
	2. 中部	0.0164		0.0250		0.1441		0.1018		0.0424		0.0564	
	3. 東部	-0.1360		-0.1050		-0.0897		-0.1270		-0.1259		0.0779	
	4. 北部	-0.0131		-0.1621		-0.1979		-0.0916		-0.2033		-0.1199	
問4. 現在の使用状況	1. 良く使う	-0.0154	0.3604	-0.1707	0.3526	0.0421	0.3139	-0.1301	0.4584	-0.0764	0.1501	0.1240	0.4326
	2. 時々使う	-0.0002		-0.1209		-0.0431		-0.0801		0.0737		0.1494	
	3. たまに使う	0.1555		-0.0572		0.2437		-0.0857		0.0476		0.2555	
	4. 使わない	-0.2049		0.1820		-0.0702		0.3283		-0.0309		-0.1771	
問5. 使用状況の変化	1. 以前も現在も使っている	-0.1827	0.7125	0.0211	0.1746	-0.0172	0.2308	0.0814	0.3097	-0.0254	0.2894	-0.0758	0.3242
	2. 以前も現在も使っていない	-0.5298		0.0166		0.0906		-0.2284		0.1651		0.1636	
	3. 以前の方がよく使っていた	-0.1627		0.0387		-0.1402		0.0763		-0.1243		-0.1607	
	4. 以前だけ使っていた	0.2765		-0.1360		-0.0175		-0.0451		-0.0151		-0.0317	
	5. 現在だけ使っている	-0.0474						0.0479					
問6. 指導者の経験	1. ある	0.2046	0.2819	0.0509	0.1213	0.1319	0.1582	0.2145	0.2940	0.0456	0.1134	0.1467	0.1998
	2. ない	-0.0772		-0.0704		-0.0263		-0.0795		-0.0678		-0.0332	
	3. わからない	0.0020		0.0455		-0.0163		0.0150		0.0446		0.0043	